

■ 人の神経細胞を使った宇宙実験を指揮する鹿大大学院教授

国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」で、人の神経細胞を使った実験を始める。地上の100倍以上とされる放射線が飛び交う宇宙空間。「長期滞在する人間にどんな影響を及ぼすのか、実はよく分かっていない。リスクと対処法を解明したい」

4月5日に予定されている米スペースシャトルの打ち上げは、目の前で見守るつもりだ。細胞は宇宙で1カ月間培養、地球に帰還後、解析する。「少年時代のヒーローは、

ひでゆき 秀行 さん
しま 嶋 馬



科学発展の夢を見せてくれた鉄腕アトム。自分も発展に貢献できるのなら「幸せ」と笑顔を見せる。東京生まれ。父が歯科医で、後を継ごうと日本大学歯学部に進学。在学中に基礎医学、特に放射線を使ったがん治療に興味を持ち、研究者の道を選んだ。千葉の放射線医

科学発展の夢を見せてくれた鉄腕アトム。自分も発展に貢献できるのなら「幸せ」と笑顔を見せる。東京生まれ。父が歯科医で、後を継ごうと日本大学歯学部に進学。在学中に基礎医学、特に放射線を使ったがん治療に興味を持ち、研究者の道を選んだ。千葉の放射線医

か お

屋久島など豊かな自然にも恵まれている。公害や温暖化を抑えつつ、科学を発展させる研究をここから世界に発信したい」と、9年前に鹿児島大学歯学部教授に着任。講座は、宇宙航空研究開発機構と連携している。「やるからには中途半端にできない凝り性」で、10歳で始めたヨットは17歳で世界選手権に出場する腕前になったほど。「今は研究が一番」と艇を操る機会はない。家族を東京に残し、鹿児島市で単身赴任生活。55歳。(社会部・濱田朋美)